



2~5月の管理ポイント

気温が上がり、芝が動き出すといよいよシーズン到来です。冬季の芝生には低温や乾燥によるストレスが掛かっており、気づかないうちにダメージが蓄積しています。蓄積したダメージを放置せず、夏越しに向けてコンディションを整えていきましょう。

高親水性土壤用界面活性剤

バイタルドロップ

高親水性のバイタルドロップは、散布時に葉の表面や表層の撥水性土壤に付着する量が少なく、深い層まで素早く届いて処理層を形成します。散布液が高濃度になる少水量散布でも高い効果が得られます。ドライスポットの予防と治療、どちらの目的でも使用できる利便性の高い土壤用界面活性剤です。

土壤水分を低めに保ちたい場合はレボ、スポット処理には手撒きしやすい粒剤タイプのハイドレーターGがおすすめです。

ドライスポットの予防 使用量：1ml/m²/月 散布水量100ml/m²以上
 ドライスポットの治療 使用量2ml/m² 散布水量100ml/m²以上

サッチの除去
 土壤環境の健全化

サッチクリーナー

サッチ成分のセルロース・ヘミセルロースを分解する酵素を主成分とした、酵素タイプのサッチ分解剤です。酵素そのものを散布するため即効性に優れており、サッチ分解量をコントロールすることが可能です。液剤であるため取扱いやすく、フィルターに詰まりません。農薬との混用や近接散布も可能です。土壤の透水性を改善しましょう。

土壤微生物が活発な時期になるので、微生物タイプのサッチ分解剤「サッチ・マネージャー」もおすすめです。

使用量：グリーン0.2ml/m² ラフ・FW・Tee0.1-0.2ml/m² 散布水量0.2-0.5l/m²

病害予防に

グリーンオキシラン水和剤

グリーンオキシランは有機銅とキャプタンが有効成分の防除剤です。着色剤入りで希釈液が緑色なので、散布した後の葉が黄色くならず、美観を損ないません。幅広い病害に効果があり、更新作業時の保護殺菌にお勧めです。

使用量：バントグラス_希釈倍率300-500倍 1-2l散布/m² 日本芝 希釈倍率500倍 1-2l散布/m²

光合成だけでは足りない
 養分の補給に

グリーンメカ

生育期を迎え芝生の活動が活発になると、大量のエネルギーが必要になります。しかし気温が低いと光合成スピードが遅く、必要量のエネルギーを作り出すことが出来ません。

貯蔵養分を使い込む前に、糖・アミノ酸・ミネラルたっぷりのグリーンメカで足りないエネルギーを補給しましょう。

使用量：2~10ml/m² 散布水量：1l/m²

池の水をきれいなブルーに

ワラーブルーL

池がきれいなブルーになりコースの景観が良くなります。ワラーブルーLに含まれる2種類の色素で、水生植物(アオコなど)の光合成に必要な光(430nm、630nm)を遮り、増殖を抑えます。増殖が始まる前からの使用が効果的です。安全性の高い食用色素を使用しているため、着色した池の水を芝生への散水や薬剤散布にも利用できます。

使用量：500ml/水500トン

池の水質改善に

セラクリーン

セラクリーンは、池に散布することで水中の悪臭原因物質を吸着し拡散を防ぎます。またカルシウム等のミネラル分をゆっくりと放出して水質の悪化(酸性化)を防ぐことで、池の水質浄化に優れた効果を発揮します。即効性の粉タイプと遅効性の顆粒タイプがあります。気温が低く微生物やアオコなどの活性が低い時期から、池の水質改善を行いましょう。池の掃除後の使用も効果的です。

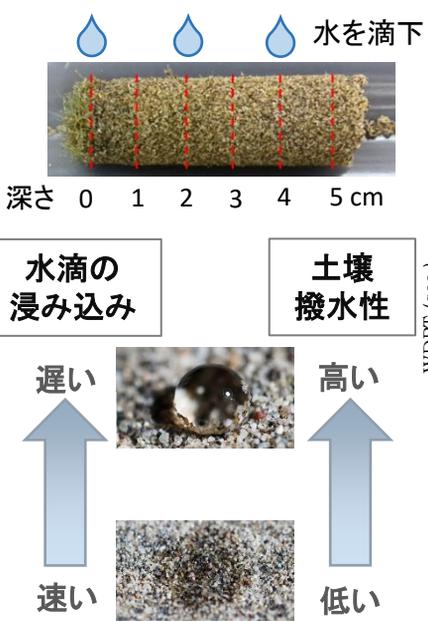
使用量：5~10袋(100~200kg)/1,000m² 5~10袋(100~200kg)/水1,000トン

芝生管理のマメ知識 第194号
<春> 土壌の撥水性と乾燥温度の関係

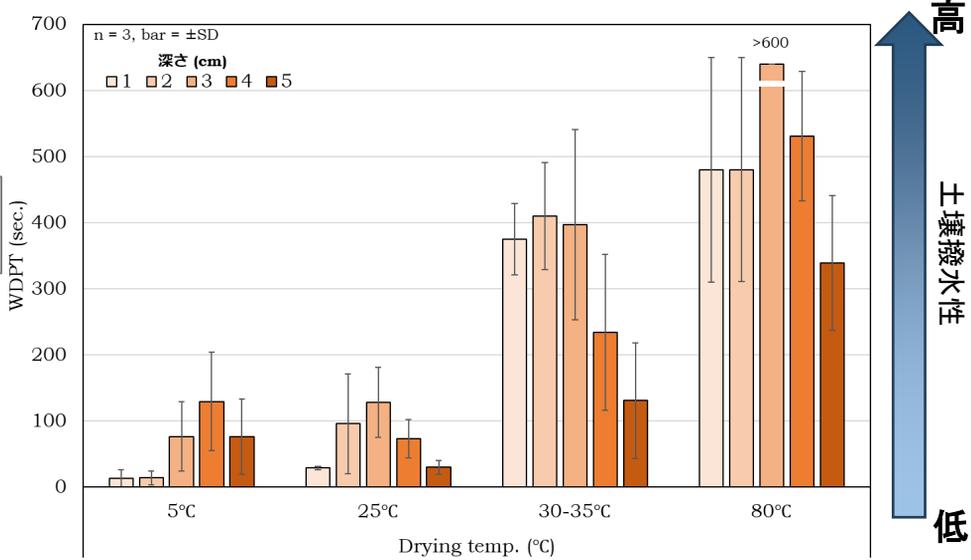
気温の上昇とともに土壌の撥水性は増していきます。今回は、その撥水性が乾燥するときの温度に強く関係していることをご紹介します。本報告は、昨年10月の日本芝草学会秋季大会にて発表いたしました。

乾燥温度比較

ベントグラスグリーンの土壌を抜き取り(7月)、各温度で2週間乾燥後、深さごとの水滴の浸み込み時間(WDPT)を調べました



水滴の浸み込みが遅いということは、土壌撥水性が高いということになります。

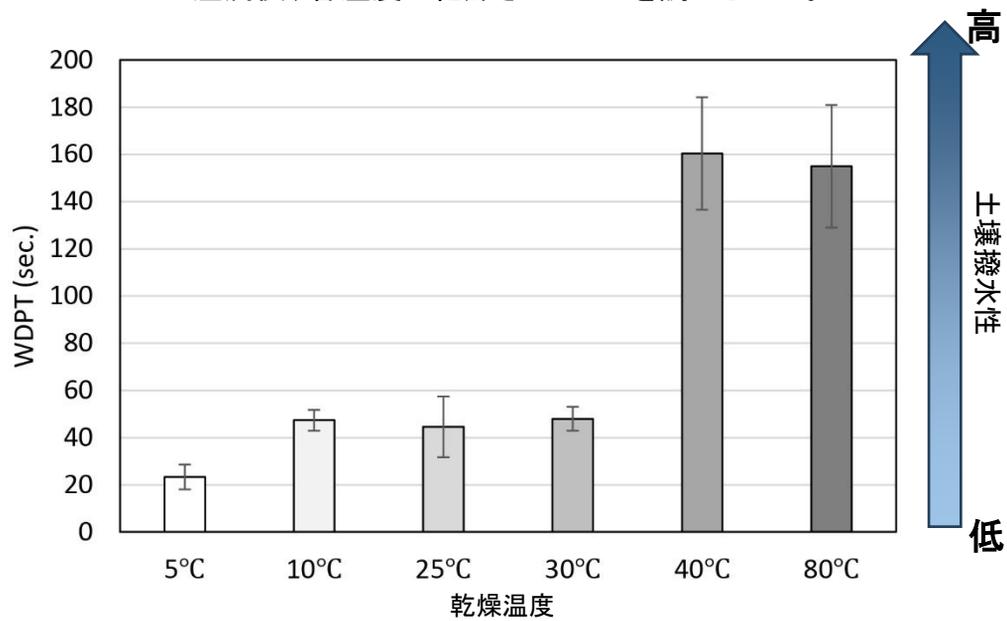


乾燥温度比較(砂のみ)

ベントグラスグリーンの土壌から篩などで砂だけを分離し、湿潤後、各温度で乾燥させWDPTを調べました。

砂だけで比較しても、乾燥温度が高いほど撥水性は高いことが分かりました。

また、高温で乾かした砂を再び濡らし、今度は低温で乾かすと、撥水性が低くなったことも確認しています(学会にて報告済)。したがって、最終的な乾燥温度が撥水性に強く影響していることが示唆されました。



本研究により、乾燥するときの温度が高いほど、土壌の撥水性は高くなることが分かりました。したがって、春から夏にかけて気温が上昇するとともに、土壌の撥水性は高くなってきます。更新作業や浸透剤散布により、**土壌の撥水性を軽減し、芝生が十分に水を得られる環境に整えてあげましょう!**